

明治学院中学校・東村山高等学校 チャプレン・聖書科教諭

## 今村 栄児 (いまむら えいじ)

### 今村教諭のこれまで

- ▶1968年 千葉県生まれ。幼いころ亡くなった祖父は素封家の生まれで村唯一のクリスチャンだった。しかし一家は一般的なノンクリスチャン家庭として暮らしていた。
- ▶1991年 國學院大学文学部哲学科卒業。同年イースターに日本基督教団千葉教会で受洗。
- ▶1993年 東京神学大学3年次編入学。
- ▶1998年 東京神学大学大学院修了。東北学院中学校・高等学校聖書科教諭に赴任。
- ▶2003年 明治学院中学校・東村山高等学校の聖書科教諭・チャプレンとして着任し、今に至る。



## 伝道者は人生の全てに関わる。 教務教師にも、骨太の神学が必要。

**実** は、東神大を不合格になったことがあります。大学の授業「キリスト教概論」で聖書に出会い、さらに西洋古典哲学を学び、中世の聖人伝説をラテン語で読んでいたうちに、この偉人、聖人たちが命をかけて「神よ、キリストよ」と呼びかけるものは何なのかが気になり始めました。大学3年生のある日、県立図書館に行った折に千葉教会を訪ねました。実は、私の祖父は村唯一のクリスチャン。亡くなるまで一人でこの教会に出席していたのです。古くからの教会員によると祖父のあだ名は“哲学者”で、その孫が哲学科の大学生として現れた巡り合わせを、とても喜んでくれました。こうして教会に通うようになり、しばらくして洗礼を受けました。

大学卒業後、牧師と話すうちに東京神学大学で学びたいと思い立ちましたが——冒頭のように、入学は叶いませんでした。面接で「召命、献身について思いを述べてください」と問われて、言葉を返せなかったのです。

当時の私は、礼拝出席以外の教会の交わりにはほとんど加わらず、どこかでキリスト教を「学問対象」と捉えていたのかもしれません。態度を改め、教会学校教師の奉仕や委員会活動に参加して初めて「教会はなんと有機的に動いているのだろう！」と生から死まで人生の全てに関わる豊かな働きを実感。ようやく「キリストと教会に仕える」という召命が与えられました。

神学校卒業時には、ギリギリになって教務教師として声がかかりました。教会に仕えるつもりでいたので、赴任したときはカリキュラムも知らず生徒に教える心構えもできていません。当然、授業も学級運営もうまくいかず、教員になるべくしてなった同僚の中で違和感を抱え、迷惑をかけた通してした。その後誘われたのが今の学校です。「向いて

いないと思います」と一度はお断りしたのですが「そんな先生だからこそ来ていただきたい」との言葉。本当にありがたかったです。

こんなデコボコ道の教師人生ですが、それでもなんとか倒れず来たのは、東神大で“骨太の”神学をしっかりと学ぶことができたからだと思います。例えば「学校礼拝ではどんな讃美歌を歌うべきか」といった議論が起きたとき、判断の根本には神学が必要です。授業はもちろん、神学に根差したキリスト教の真髄を真剣勝負でぶつけます。そんな私のことを生徒らは「暑苦しい」と言いつつ、応えてくれます。高校3年生の選択授業では神学者マクグラスのテキストを用い「神の全能性について」等のテーマに力いっぱい挑みますし、チャペル礼拝の最後の祝祷、とくにアロンの祝祷が大好きで教会に通うようになって受洗した子もいる。こんな素晴らしい働きに用いられるためにも、東神大を目指す方には、とことん神学を学び、神学と格闘していただきたいと思います。今の私も、神学生時代の厚みのある学びに助けられてきたのです。

### 今村先生のある1日

8:00	職員礼拝
8:40	チャペル礼拝
9:10~15:00	授業(週に17コマ+αを担当) 空き時間に各種会議(生徒自治の会議、キリスト教活動委員会、学年会など)
15:00~15:30	ホームルーム
15:30~	生徒指導面接、委員会や部活動を顧問として指導
18:30~	学年の仕事、学校行事準備、テスト等の採点、授業準備など
21:00頃	帰宅

\*取材時は、クラス担任、高校生徒会担当、募集入試委員、宗教委員(キリスト教活動委員)を務め、クラブ活動として、キリスト教研究会、中学男子バスケットボール部の顧問。日曜日は出路教会で教会学校教師。

